

教科・科目	数学・ステップアップ数学	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	1	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 四則計算、正負の数及び平方根について、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 割合と比、文字式の計算及び方程式を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
使用教科書 副教材等	新 高校の数学Ⅰ（数研出版） ラレボ 数学（東京書籍）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	四則計算、正負の数及び平方根について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	割合と比、文字式の計算及び方程式を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	整数の四則計算 小数の四則計算 分数の四則計算	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	割合と比 正負の数 平方根 文字式の計算 方程式	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録				添削担当者			先生			登録			
スクーリング 回数		学 習 内 容		レポート						スクーリング実施日			
				回	提出日・合格				日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	①	加法と減法	前 1	1 3		2 4		4/20	4/21	—	4/24		
	②	乗法と除法	前 2	1 3		2 4		5/11	5/12	—	5/15		
	③	四則計算と小数	前 3	1 3		2 4		5/25	5/26	—	5/29		
	④	小数の計算	前 4	1 3		2 4		6/8	6/9	—	6/12		
	⑤	この回は、実施されません。											
	⑥	小数と分数	前 5	1 3		2 4		7/6	7/7	—	7/10		
	⑦	分数の四則計算	前 6	1 3		2 4		7/20	7/14	—	7/24		
	試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/24	8/25	—	8/28		
後期	⑧	割合・比	後 1	1 3		2 4		10/12	10/20	—	10/16		
	⑨	正負の数	後 2	1 3		2 4		10/26	10/27	—	10/30		
	⑩	この回は、実施されません。											
	⑪	平方根	後 3	1 3		2 4		11/23	11/17	—	11/27		
	⑫	式の計算	後 4	1 3		2 4		12/7	12/8	—	12/11		
	⑬	式の展開・1 次方程式	後 5	1 3		2 4		12/21	12/22	—	12/25		
	⑭	連立方程式・2 次方程式	後 6	1 3		2 4		1/11	1/19	—	1/15		
	試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		2/1	2/2	—	1/29		

6 先生からのメッセージ

「ステップアップ数学」では、小学校の足し算、引き算から、中学校の正負の数、2次方程式の解き方まで、9年間分の算数と数学の計算分野を復習します。スクーリングでは「ラレボ」を使用します。学習した内容を確実に定着させるために、「ラレボ」を利用して、日々の復習に丁寧に取り組みましょう。

教科・科目	数学・数学Ⅰ	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	1、2	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：数学Ⅰ				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 数や式を適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフに関連付けて考察する力、データを適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決する力を身に付ける。 (3) 数学のよさを認識し活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
使用教科書	新 高校の数学Ⅰ（数研出版）
副教材等	新課程 新高校の数学Ⅰ対応 ポイントノート数学Ⅰ（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現して、表、式、グラフに関連付けて考察する力、データを適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決する力を身に付けている。	数学のよさを認識し活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 数と式 第2章 二次関数	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第3章 図形と計量 第4章 集合と命題 第5章 データの分析	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録			添削担当者				先生				登録
スクーリング 回数	学 習 内 容	レポート						スクーリング実施日			
		回	提出日・合格				日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	①	数と式の計算①	前 1	1		2		4/20	4/21	4/22	4/24
	3			4							
	②	数と式の計算②	前 2	1		2		5/11	5/12	5/13	5/15
	3			4							
	③	一次不等式	前 3	1		2		5/25	5/26	5/27	5/29
	3			4							
	④	二次関数①	前 4	1		2		6/8	6/9	6/10	6/12
	3			4							
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	二次関数②	前 5	1		2		7/6	7/7	7/8	7/10
3		4									
⑦	二次関数③	前 6	1		2		7/20	7/14	7/22	7/24	
3			4								
試験	レポート前 1 ～前 6 の内容		本試験		追再試		8/24	8/25	8/26	8/28	
後期	⑧	図形と計量①	後 1	1		2		10/12	10/20	10/14	10/16
	3			4							
	⑨	図形と計量②	後 2	1		2		10/26	10/27	10/28	10/30
	3			4							
	⑩	この回は、実施されません。									
	⑪	図形と計量③	後 3	1		2		11/23	11/17	11/25	11/27
	3			4							
	⑫	集合と命題	後 4	1		2		12/7	12/8	12/9	12/11
	3			4							
	⑬	データの分析①	後 5	1		2		12/21	12/22	12/23	12/25
3		4									
⑭	データの分析②	後 6	1		2		1/11	1/19	1/13	1/15	
3			4								
試験	レポート後 1 ～後 6 の内容		本試験		追再試		2/1	2/2	2/3	1/29	

6 先生からのメッセージ

数学を学習することで、単に知識や技能の獲得だけではなく、筋道を立てて物事を考える力を養うことができます。高等学校の数学でその基礎となる科目が「数学Ⅰ」です。スクーリングで学習した内容を、レポートやポイントノート数学Ⅰを利用して毎日復習することで、数学的な技能を確実に身に付けていきましょう。

教科・科目	数学・数学Ⅱ	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理法則を理解するとともに、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現する力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける。 (3) 数学のよさを認識し活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
使用教科書 副教材等	新編 数学Ⅱ（数研出版） 新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理法則を理解するとともに、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付けている。	等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録				添削担当者			先生			登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート					スクーリング実施日			
			回	提出日・合格			日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	①	式と計算	前 1	1 3		2 4		4/20	—	4/22	4/24
	②	複素数と二次方程式の解	前 2	1 3		2 4		5/11	—	5/13	5/15
	③	高次方程式	前 3	1 3		2 4		5/25	—	5/27	5/29
	④	点と直線	前 4	1 3		2 4		6/8	—	6/10	6/12
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	円の方程式	前 5	1 3		2 4		7/6	—	7/8	7/10
	⑦	不等式の表す領域	前 6	1 3		2 4		7/20	—	7/22	7/24
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/24	—	8/26	8/28	
後期	⑧	三角関数	後 1	1 3		2 4		10/12	—	10/14	10/16
	⑨	指数関数	後 2	1 3		2 4		10/26	—	10/28	10/30
	⑩	この回は、実施されません。									
	⑪	対数関数	後 3	1 3		2 4		11/23	—	11/25	11/27
	⑫	微分係数と導関数	後 4	1 3		2 4		12/7	—	12/9	12/11
	⑬	関数の値の変化	後 5	1 3		2 4		12/21	—	12/23	12/25
	⑭	積分法	後 6	1 3		2 4		1/11	—	1/13	1/15
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		2/1	—	2/3	1/29	

6 先生からのメッセージ

数学を学習することで、単に知識や技能の獲得だけではなく、筋道を立てて物事を考える力を養うことができます。「数学Ⅱ」は「数学Ⅰ」で学んだことを用いて、さらに数学を深く学びます。スクーリングで学習した内容を、レポートや 3 TRIAL を利用して毎日復習することで、数学的な技能を確実に身に付けていきましょう。

教科・科目	数学・数学 A	単位数	2（前期 1 + 後期 1）		
		ライン	3	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付ける。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
使用教科書 副教材等	新編 数学 A（数研出版） 新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学 A（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第 1 章 場合の数と確率	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第 2 章 図形の性質 第 3 章 数学と人間の活動	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 2 回以上、後期 2 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前 1 回～前 6 回、後 1 回～後 6 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録			添削担当者				先生		登録		
スクーリング 回数	学 習 内 容	レポート						スクーリング実施日			
		回	提出日・合格				日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	① 場合の数①	前 1	1 3		2 4		4/20	—	4/22	4/17	
	② 場合の数②	前 2	1 3		2 4		5/11	—	5/13	5/8	
	③ 順列	前 3	1 3		2 4		5/25	—	5/27	5/22	
	④ 組合せ	前 4	1 3		2 4		6/8	—	6/10	6/5	
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥ 確率①	前 5	1 3		2 4		7/6	—	7/8	7/3	
	⑦ 確率②	前 6	1 3		2 4		7/20	—	7/22	7/17	
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本 試 験		追 再 試		8/17	—	8/19	8/21	
後期	⑧ 平面図形の性質①	後 1	1 3		2 4		10/12	—	10/14	10/9	
	⑨ 平面図形の性質②	後 2	1 3		2 4		10/26	—	10/28	10/23	
	⑩	この回は、実施されません。									
	⑪ 平面図形の性質③・空間図形	後 3	1 3		2 4		11/23	—	11/25	11/20	
	⑫ 約数と倍数	後 4	1 3		2 4		12/7	—	12/9	12/4	
	⑬ ユークリッドの互除法	後 5	1 3		2 4		12/21	—	12/23	12/18	
	⑭ 整数の性質と活用	後 6	1 3		2 4		1/11	—	1/13	1/8	
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本 試 験		追 再 試		1/25	—	1/27	1/22	

6 先生からのメッセージ

数学を学習することで、単に知識や技能の獲得だけではなく、筋道を立てて物事を考える力を養うことができます。高等学校の数学でその基礎となる科目が数学 A です。スクーリングで学習した内容を、レポートや補助教材を利用して毎日復習することで、数学的な技能を確実に身に付けていきましょう。

教科・科目	数学・数学 B	単位数	2（前期 1 + 後期 1）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に 着目し、母集団の傾向を推測し判断し、解決の過程や結果を振り返って考察する力を身に付ける。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しよう とする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創 造性の基礎を身に付ける。
使用教科書 副教材等	新編 数学 B（数研出版） 新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学 B（数研出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断し、解決の過程や結果を振り返って考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第 1 章 数列	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第 2 章 統計的な推測	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験	・ レポート ・ 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 2 回以上、後期 2 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポ ー ト	前 1 回～前 6 回、後 1 回～後 6 回のすべてに合格すること。	
試 験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録				添削担当者			先生			登録	
スクーリング 回数		学 習 内 容	レポート					スクーリング実施日			
			回	提出日・合格			日 S	月 S	火 S	木 S	
前期	①	数列と一般項	前 1	1		2		4/20	—	4/22	4/17
	3			4							
	②	等差数列	前 2	1		2		5/11	—	5/13	5/8
	3			4							
	③	等差数列の和	前 3	1		2		5/25	—	5/27	5/22
	3			4							
	④	等比数列	前 4	1		2		6/8	—	6/10	6/5
	3			4							
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	等比数列の和	前 5	1		2		7/6	—	7/8	7/3
3		4									
⑦	漸化式と数学的帰納法	前 6	1		2		7/20	—	7/22	7/17	
3			4								
試験	レポート前 1～前 6 の内容		本試験		追再試		8/17	—	8/19	8/21	
後期	⑧	確率変数の期待値と分散	後 1	1		2		10/12	—	10/14	10/9
	3			4							
	⑨	確率変数の和と積	後 2	1		2		10/26	—	10/28	10/23
	3			4							
	⑩	この回は、実施されません。									
	⑪	二項分布	後 3	1		2		11/23	—	11/25	11/20
	3			4							
	⑫	正規分布	後 4	1		2		12/7	—	12/9	12/4
	3			4							
	⑬	母集団と標本	後 5	1		2		12/21	—	12/23	12/18
3		4									
⑭	推定	後 6	1		2		1/11	—	1/13	1/8	
3			4								
試験	レポート後 1～後 6 の内容		本試験		追再試		1/25	—	1/27	1/22	

6 先生からのメッセージ

「数列」では様々な規則性をもつ数の並びから一般項や数列の和について調べていきます。「統計的な推測」では確率を求める問題から始まり、母集団の性質を推測する方法までを学びます。日々のスクーリングを大切に、分からないところはそのままにしないようにしましょう。教科別質問教室や Classroom の活用を積極的に！